

去る3月2日14:30より中央支部総会並びに第2回学術大会が開催された。昨年
の大雪とは異なり、春を感じさせる晴天に恵まれた中、賛助会員を含め25名の出席
で行われた。

プログラムは支部の活動報告、特別講演、そして学術大会が行われ、支部活動で
は次年度、他支部の活動に習いもっと他施設間の交流(まずは顔見知りになること)
が盛んになるような企画、10年、20年後の技師会活動を見据え20代、30代の会員
をターゲットにしたイベント・交流会を行うことが報告された。特別講演は、高齢化が
進む秋田県の現状、その最先端でご活躍の西明寺診療所所長、市川晋一医師をお
招きしてへき地医療の現状についてユーモアを交えてお話しいただいた。先生は24
時間、365日体制で地域住人の健康を守り続けてこられた背景には、行政も巻き込
んだ結果だと話した。規模は小さいながらも行政と医療スタッフ(診療所・ケアマネー
ジャー・保健師など)間の連携を密にしているからこそできたことと謙遜してお話し
いただいた。第2回となる学術大会は演題数4題と昨年より少なく、そのためか参加人
数も減少となった。しかし、時間的な余裕ができ、演者にはできるだけわかりやすく話
してもらうことができ、多くの質問を受けることが出来た。

学術大会終了後、新病院開院でお忙しいところ駆けつけて頂いた豊嶋会長と小松
前支部長よりいただいたお酒で賛助会員のみなさんと楽しいひと時を過ごさせてい
ただいた。

(文責:谷口)



